

第1回「若年性認知症支援コーディネーターについて」

秋田県認知症疾患医療センター

(秋田県立リハビリテーション・精神医療センター)

精神保健福祉士 戸堀 由貴子 氏



認知症についてテレビや新聞等で特集されることも多くなり、以前より身近な病気と感じられているのではないのでしょうか。認知症は高齢になるにつれ増えてくる病気ですが、65歳未満で発症された場合を、若年性認知症と言います。

発症年齢が若いと、その症状が認知症によるものだと気づきにくく、うつ病や更年期障害など他の病気を疑い、適切な治療や支援の介入が遅れてしまうこともあります。最近仕事でミスが目立ってきた、計算や漢字が苦手になった等、できないことが増えたり、気になることがありましたら、若年性認知症支援コーディネーターへご相談ください。

若年性認知症支援コーディネーターは、秋田県の委託を受け、秋田県立リハビリテーション・精神医療センターに配置されています。コーディネーターは若年性認知症のご本人やご家族、企業などからの相談をワンストップで行うよう努めます。65歳未満といえば働き盛りの世代であり、社会や家庭で重要な役割を担っている時期です。ご本人とご家族がその人らしく家庭生活を継続できるよう、関係機関とも連携をとりながら、総合的なコーディネートを目指し支援します。

病院代表電話：018-892-3751

